http://www.ne.jp/asahi/tpc/hana/

TPC通信

TPC通信
発行　TPC広報委員
連絡 hiro_od@yahoo.co.jp

新しいメンバーお一人、仲田さんはスポーツウーマン、卓球で活躍中。力仕事はお任せ下さいと心強い若手です。チャコさんは体調を整えるため研修を断念。あの日仙台で起こった悲しい体験を聞かせて下さいました。藤倉さんは版画の展示会の予告を、きょんきょんは研修旅行を前に複雑な現実の見聞に戸惑いもあるという。話を深めたいと思う頃懇親会はそろそろ締めの時間が近ずいていた。一同マハロさんのウクレレにのって「TPCの歌」「上を向いて歩こう」を歌って終了した。

2012 総会・懇親会

総会資料のきめ細かい活動内容でPCは言うに及ばず多岐にわたる情報に関わった一年であったと喜びと満足感に浸る。この気分を一層盛りたてくれたのは壁面に掲げられた大漁旗だ。めでたい鯛がメンバーの抱負やつぶやきを吹き出しにして大海原の日の出を浴びている。この抱負が泡と消えないように自らに言い聞かせた。事業報告、決算報告、事業計画、予算書、規約改正、新役員が全会一致で承認された。続いて懇親会へ。クマさんの進行で開会。乾杯の前に厳粛な黙祷を。二月に亡くなられた堀江和加枝さん。東北大震災で亡くなられた多くの方がたに捧げた。ズシリ胸に収める。次にクマさんのシアワセダ説に耳を傾けよう「シアワセの種を撒くと シアワセの花が咲く」の種を撒き続けて二十年。今日は夫君の重氏の誕生日。プレゼントは決してワニさんの永遠のバラはしないで枯れない特製、感謝のメッセージは役員さんから、そしてハッピーバースディの大合唱でなごやかに祝いました。

3.11 あれから1年

課外研修・石巻

「百聞は一見に如かず」壊滅的被害とは、街が根こそぎなくなることと、その現実を目にし、衝撃的な研修だった。4月16日、早朝のやまびこで仙台へ。仙石線に乗り換え、松島海岸、矢本間を満員の代行バスに乗つJR石巻に到着。すぐ、11時、市役所に向かう。快く私達を迎えてくれた教育長に、昨年の3・11以来、朝日新聞社に2度募金して、3度目の今回は現地の被災した子供たちに直接届けたいというTPCの思いを伝え、全員の募金とメッセージカードを添えて千羽鶴をお渡しした。石巻では、津波の犠牲になったり、親を亡くしたり した子ども達が、それぞれ1800人余、1500人近くいるという。阪神淡路大震災の教訓を踏まえて10年～15年の長い年月にわたる心のケアが必要とのお話しに、子ども達が震災を乗り越え、希望が持てる生活が戻るように半市ぐ所かりです。11時推薦のB級グルメのお店で昼食を済ませ山元へ向かう。マンガ通り、中央2丁目あたりは、人や車の往来から生活がだいぶ戻っている様子に少し安堵した。

ただ一つ残った石巻港沿岸を走ると、街がすっかり消え、延々と更地が続く目の前の無残な光景に言葉を失った。何キロ走ったあたりか、あたりは一面がコンクリートの海。流された3階建のコンビニがゴロゴロと横たわり、湾の向こうには、骨組みだけの漁業組合が見える。ここは海岸から20mほどの高さかと思われたが、津波の足もとまで水が来た。小学校、中学校、病院、高台にある市立病院の前に止まる。

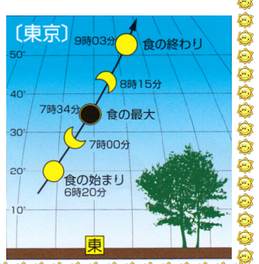
渡波のたのは)牡蠣小屋を横目で見て女川湾沿いの雄勝病院、雄勝小学校、雄勝中学校、雄勝の海岸沿って走る。雄勝は無残な姿で残り、校庭は瓦礫の山だった。石巻総合支所の前でバスが止まり、3階まで水が来たと知る。更に海岸を走ると、時々20～30軒ほどの仮設住宅が建っている。すぐ山が迫っていて土地が狭く、住宅建設はこれで限界という。津波は高台の小学校避難した人々と同じく私たちも家に帰り着きました。思わぬ体験でした。

リサイタルはシューベルトとモーツアルトの曲です。ホールの音響のよさに、奏者の奏でる音の心地よさに癒されたひとときでした。

洋

5月21日朝　金環日食！

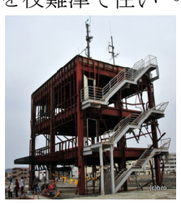
日食は地球のまわりをまわる月が起こす現象で、必ず新月の時に起こります。真っ黒で太陽の前を通り過ぎるため、欠けて月が分と新月の姿を見ていることになります。部月ピッタリ重なることができます。太陽の大きさは月の400倍ですが、地球から、月より400倍遠くにあるので見かけは同じ大きさに見えるので、重食日の本当は大きいのは月です。なぜ食度はワニまで！！



わに

宅が建っている。

献花参拝に持参した花が今日、4人が死亡、不明。



悲しいことが起こってしまったのか、涙、涙。街がなくなった南三陸町。自分を犠牲にして「避難して下さい」と呼びかけた、あの鉄骨だけになった痛々しい防災庁舎が、復興のシンボルとして津波に負けない街づくりの礎になるでしょう。

あの日から一年たった被災地に赴いて、自分の目で直接見ることがいかに大切かを知った。これからもTPCの絆を深め、被災地の復興を見守っていきたい。

きょんきょん

大川小学校　言葉もない。風が吹き抜ける校庭に聞こえるはずもない子供たちの楽しげな笑い声が聞こえる

マハロ

南三陸町防災対策庁舎屋上まで津波が襲い、職員のほとんどが犠牲になった。ビルの下に立って津波の大きさ怖さを初めて知った。

日和山公園に登る津波を逃れて、この階段を駆け上った。眼下には3階まで水没した市立病院とお寺だけが…

足　あ　と

ある夜　わたしは夢を見た　神さまと二人並んで　わたしは砂浜を歩いていた。砂の上に二組の足あとが見えていた。一つは神さまの　そして一つは　私のものだった。しかし　最後にわたしがふりかえってみた時　ところどころで　足あとが一組だけ　しか　見えなかった。私の愛する子どもよ　私はけっしておまえのそばを離れたことはない。おまえがもっとも苦しんだ時　私が一組の足あとがなかったのは　おまえを　抱いていたからなんだよ　私が勇気つけられた言葉です。

h・k

ラオスの少数民族モン族の子供達

昨年12月ラオスに旅行した折、モン族の集落をほんの短時間見学する機会がありました。なぜか老人と子供だけしか見当たらず、小さな子供達が台の上に土産物らしき品を並べ店番をしていました。中には民族衣装を着た純真そうな可愛らしい少女もいましたが、令の子がどうしてか下半身スッポンポン！何も身に着けていないのです。それが一般的なようでした。以前中国で股割れパンツをはいているのを見ましたが、所変われば の感を強くしました。

富

あの日

高橋アキのピアノリサイタルに行ってきました。東京文化会館の小ホールです。

あの日も、私はこの文化会館に居ました。三月十一日地下鉄の中で地震に遇い、建造物が少なくて安全そうな上野公園に避難し、夕暮れとともに寒さがこたえて文化会館のロビーに入りました。

時間がたつにつれどんどん人がふえてゆきます。「さてと、私は今日はどうなるんだろう？」ま、大勢の人も居ることだし何とかなるだろうと成行きに任せるしかない」と思っていました。マイクの声です。『小ホールを開放します。だので皆さん移動しています。ロビーの中は、溢れる人を掻き分けて歩くのがやっとの状態です。

よかった！これで少しは落着けるとホッとした時、「こんな大勢の中で見つけるなんて大変だよ」と、どこかで聞きなれた声が…息子だ！メールで現状連絡を入れていたので、嫁と二人で迎えに来てくれたのです。黙々とひたすら自宅に向かって歩く人々と同じく私たちも池袋まで歩き、息子の

何故黄色なの？

気候が暖かくなってくる春には、黄色い花が目につきます。代表的な「クロッカス」「菜の花」「たんぽぽ」「葉ボタン」「水仙」や野菜の「チンゲン菜」「カリフラワー」「ブロッコリー」「無」「白菜」など花は黄色です。何故「黄色」なのかしら？と疑問でした。愚問かな？それは、昆虫が最も好む色が黄色だそうです。

花が受粉する媒体の昆虫に、「ここよ」「とても甘い蜜があるのよ」と花が呼びかけ誘っているのです。

春に活動する昆虫には、人間には見える赤が見えず、黄には敏感に反応します。虫達に運んでもらう為に虫達の好きな色が黄色なのです。

なるほど、これは自然の摂理なのか、いえ生きる為の助け合い、人間も同じです。ちなみに、ライースターのテーマカラーも黄色です。黄色の飾り付けであふれます。黄色は「春の色」ともいえるのですね！

M・Y

編集後記

新年度のスタートをきり、第49号が発行されました。4月16、17日私たちは、課外研修で石巻へ行った。味合い深い研修旅行だった。あの未曾有の大震災から1年余の今、最も被害の大きかった石巻行きは躊躇もあった。みんなの思いを知ろう、何にもまして出来ることをしたい持ちが私たちを動かし気持ちの止むことのない。育長に募金箱、千羽鶴、子たちへのメッセージカードを渡した。境さんは石巻の地図を示しながら、低い声で丹念に被災状況を説明し、松戸市役所職員に商業施設の災害に甚大深さを改めて再認識させられた。高台からは一面の更地、将棋倒しの墓石の一角、その彼方に鋭角に天空を切る瓦礫の山、積み上げられた破断に錆が付き始めた車の山、1年経った石巻の今だった。バスで走り回った女川町も、雄勝も、大川小学校も、南三陸町も、強烈に私たちの心奥深く訴えるものがあった。今各面の記事に鮮明に反映されている。私たちTPC、改めて和輪絆笑顔を強く持ち、私たちの笑顔がこの日本の笑顔になることを信じたい。「ここへ来ての観光が何よりの支援」が現地の人の思いだった事を申し添える。